

# 26年5月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成26年 4月20日～ 26年5月10日

## 2. 調査実施方法

全国の合板工場-1に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
5月分の回答企業数は7社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)=[「増加」の評価を行った回答の割合]×2+[「やや増加」の評価を行った回答の割合]-[「減少」の評価を行った回答の割合]×2-[「やや減少」の評価を行った回答の割合]÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

### (1) 国産原木入荷動向 Weight. D. I.

品目		26/5月	6月	7月
入荷動向	スギ	50.0	△ 16.7	0.0
	ヒノキ	0.0	△ 25.0	△ 25.0
	カラマツ	△ 33.3	△ 16.7	△ 16.7
	トドマツ	0.0	△ 50.0	△ 50.0
消費動向	スギ	16.7	60.0	40.0
	ヒノキ	△ 25.0	25.0	0.0
	カラマツ	△ 16.7	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0
在庫動向	スギ	50.0	△ 40.0	△ 40.0
	ヒノキ	25.0	△ 25.0	△ 25.0
	カラマツ	△ 40.0	△ 20.0	△ 20.0
	トドマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0

スギ原木の入荷は5月の増加が6月の減少を経て7月は横ばいに、ヒノキ及びトドマツは5月の横ばいが6,7月には減少に、カラマツは減少傾向で推移。

スギ原木の消費は5月、6月、7月と3月連続して増加に、ヒノキは5月の減少が6月の増加を経て7月には横ばいに、カラマツは5月は減少、6月、7月は横ばいに、トドマツは横ばいで推移。

スギ及びヒノキ原木の在庫は5月の増加が6,7月には減少に、カラマツ及びトドマツは減少傾向で推移。

### (2) 合板用原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	26/5月	6月	7月
スギ	16.7	△ 16.7	△ 16.7
ヒノキ	0.0	25.0	△ 25.0
カラマツ	33.3	16.7	△ 16.7
米マツ	20.0	0.0	0.0
北洋カラマツ	50.0	0.0	△ 33.3
その他	0.0	0.0	0.0

スギ原木価格は5月の強保合が6,7月は弱保合に、ヒノキは5月の保合が6月の強保合を経て7月には弱保合に、カラマツは5,6月の強保合が7月には弱保合に、米マツは5月の強保合が6,7月は保合に、北洋カラマツは5月の強保合が7月に向け弱保合に。

## モニターからのコメント

(原木荷動き) ・カラマツ及びトドマツ丸太は入荷が順調になった。在庫も適正になった。  
・4月に入り入荷予定数量が安定的に維持されている。稼働日に準じフル生産。スギ丸太在庫が前月より増加。  
・スギ及び特にカラマツ丸太が4月同様予定通り入ってこない。入荷に合わせた消費。在庫少なく、入荷分消費しており横ばい。  
・スギ及びヒノキ丸太は4月も消費以上に入荷、5月のGWで多少伐採減と聞くが連休明けも大量に入荷。4月はフル生産、5月はボイラー検査等で工場停止期間長く生産量は減。原木順調入荷、消費減で在庫は増加。  
・4月以降スギは入り始めたが、カラマツは厳しいまま。  
・増税後の反動減で生産調整のため入荷調整、出材は地域差あるものの概ね良好。一部地域産材の問い合わせ増加。在庫調整中。  
(原木価格) ・カラマツ原木価格は先が見えない。  
・スギ、ヒノキ及びカラマツ原木は6月末まで現在の価格体制、前年よりも上昇している。  
・国産材は横ばい。外材は現地強気姿勢変わらず、為替次第で翌月以降の予想は困難。  
・スギ原木は底値感出ているが弱含みのまま、合板用は横ばい、ヒノキは市場価格更に下げている、合板用も5月より下げ。今後、虫害が出だすと更に下げると予想。  
・落ち着いてきたが、バイオマス等含め、取り合いが心配。  
・出材状況良好も反動減で軟化傾向、外材需要も一服感あり、弱含み傾向。

## 26年5月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

## 4. 調査結果の概要

## (1) 生産動向 Weight. D. I.

品目		26/5月	6月	7月
生産動向	構造用(9mm)	△ 28.6	33.3	16.7
	〃 (12mm)	△ 14.3	28.6	14.3
	〃 (15mm)	△ 28.6	28.6	14.3
	〃 (24mm)	0.0	28.6	14.3
	〃 (28mm)	△ 14.3	28.6	14.3
出荷動向	構造用(9mm)	△ 33.3	16.7	16.7
	〃 (12mm)	△ 28.6	△ 14.3	14.3
	〃 (15mm)	△ 16.7	0.0	16.7
	〃 (24mm)	0.0	14.3	14.3
	〃 (28mm)	△ 16.7	0.0	16.7
在庫動向	構造用(9mm)	16.7	△ 16.7	△ 16.7
	〃 (12mm)	42.9	0.0	△ 14.3
	〃 (15mm)	14.3	△ 14.3	△ 14.3
	〃 (24mm)	42.9	0.0	△ 14.3
	〃 (28mm)	42.9	0.0	△ 14.3

9mm, 12mm, 15mm及び28mmの生産は5月の減少が6月、7月には増加に、24mmは5月の横ばいが6月、7月には増加に。

9mmの出荷は5月の減少が6,7月には増加に、12mm, 15mm及び28mmは5月の減少が7月に向けて増加に、24mmは5月の横ばいから6,7月には増加に。

9mm及び15mmの在庫は5月の増加から6月、7月は減少に、12mm, 24mm及び28mmの在庫は5月の増加が7月に向け減少に。

## (2) 構造用合板出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	26/5月	6月	7月
構造用(9mm)	△ 14.3	14.3	0.0
〃 (12mm)	△ 14.3	14.3	0.0
〃 (15mm)	0.0	16.7	0.0
〃 (24mm)	△ 14.3	14.3	0.0
〃 (28mm)	0.0	16.7	0.0

9mm, 12mm及び24mmの出荷価格は5月のやや弱保合が6月のやや強保合を経て保合に、15mm及び28mmは5月は横ばいが6月のやや強保合を経て7月は横ばいに。

## モニターからのコメント

(合板荷動き)・生産は変わらず。出荷は4月よりも若干落ちる見込みだったが落ち込みは少ない。在庫はほとんど無く、変わらない。

・通常生産を維持、ヒノキ製品は増産。4~6月は出荷動向鈍いと予想、6月後半に期待。4月後半から在庫増、定数量在庫に戻りつつある。

・気温上がり単板の乾燥効率向上し生産は全体的に増加。9mmは生産分を出荷、その他は増税後、トラックが取りやすくなり出荷増、新規オーダー少なく販売に苦戦。全体に出荷量の増加以上に生産増加して12mm, 24mm及び28mmの在庫が増加。

・5月のGW工場止まり、生産落ちるが6月以降通常生産に。一服感あるが、昨年度の合板不足の影響もあるのか在庫の少ないところは買い意欲ある、在庫が増えれば落ち着いてくるかと予想。出荷動向見ながら生産。

・5月連休にて工場稼働少なく生産。出荷は5月前半(連休)動きなく、後半から動きありそう。在庫は多少増えるがまだまだ適正在庫にはほど通し。

・特に変わりたいが地域指定の案件問い合わせ増

(合板価格)・消費増税後、現状価格維持が急務。

・荷動き先月に比べ悪く、価格横ばい、品目により価格弱い物もある。

・副資材の値上がりもあり製品価格に転嫁したいが荷動きの一服感もあり、各メーカーも製品在庫少ないので様子見続くと予想。

・資材、副資材のUPにより、コスト分UPへ。

・9, 12及び24mmは当月下落以降、横ばい。